

処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

- ①営業員在庫情報
- ②倉庫在庫情報

システム利用者

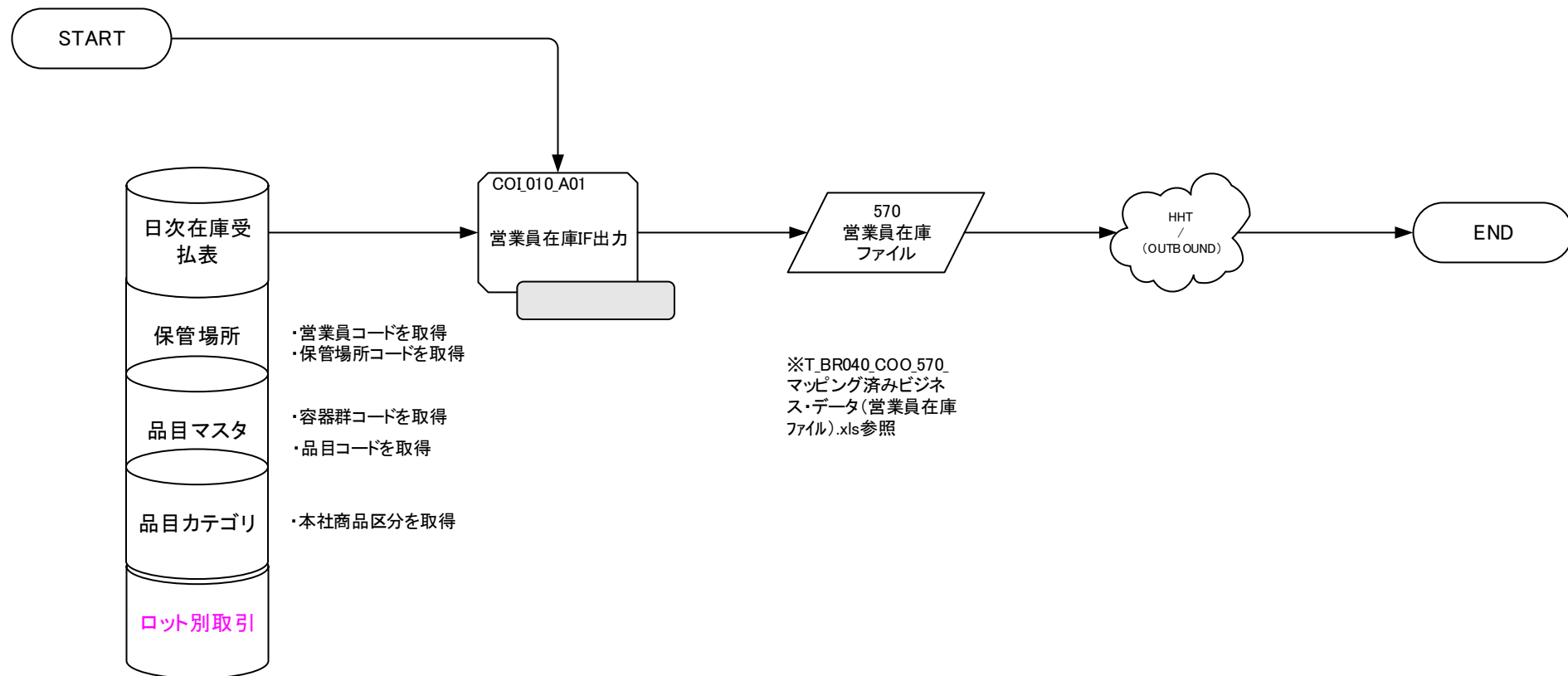
システム連携のみ

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回／日実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



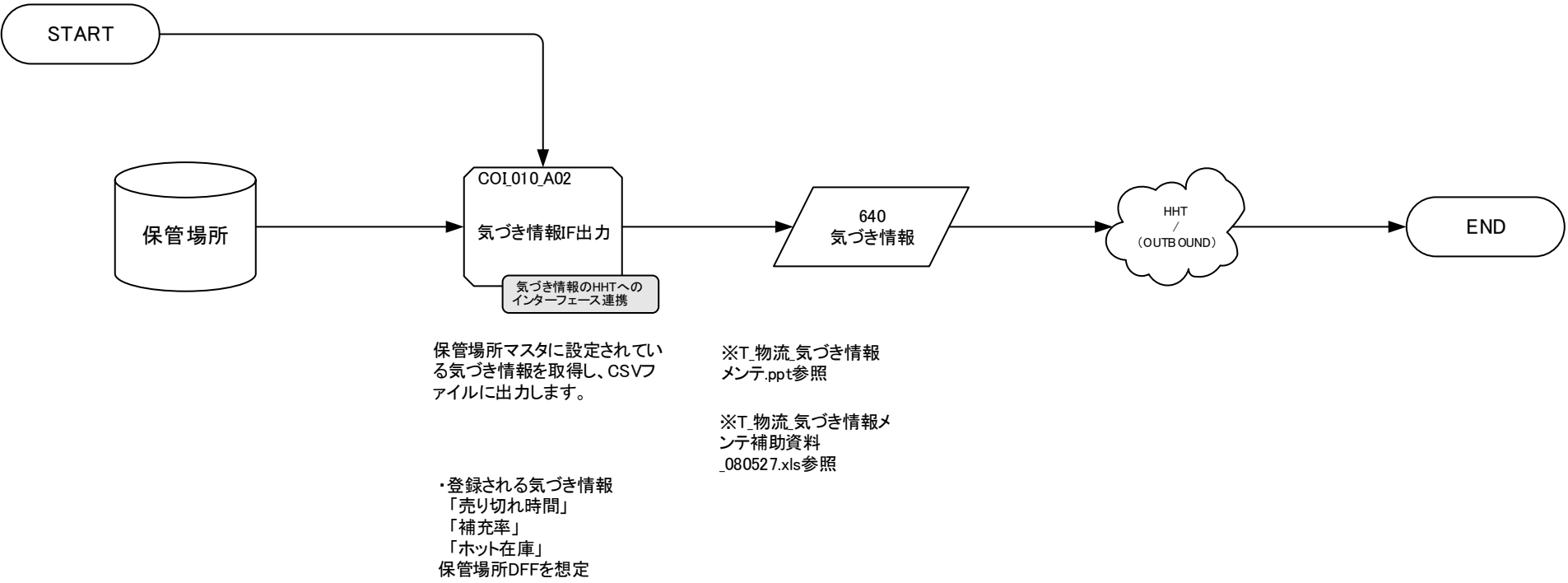
処理概要
HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。
①気づき情報

システム利用者
システム連携のみ

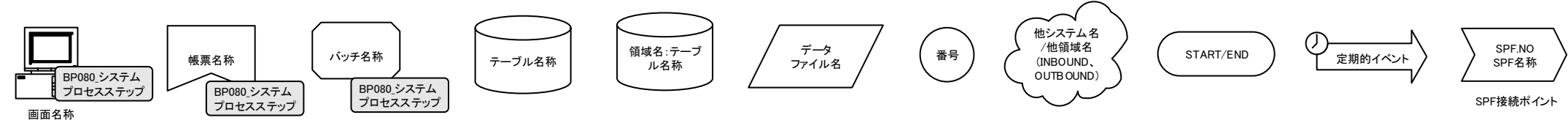
処理タイミング、その他
運用時間終了後に1回／日実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

①VDコラムマスタ情報

システム利用者

システム連携および拠点_内務担当者

(コンカレントの随時実行は可能だが、HHTまで全て連携可能かは未定)

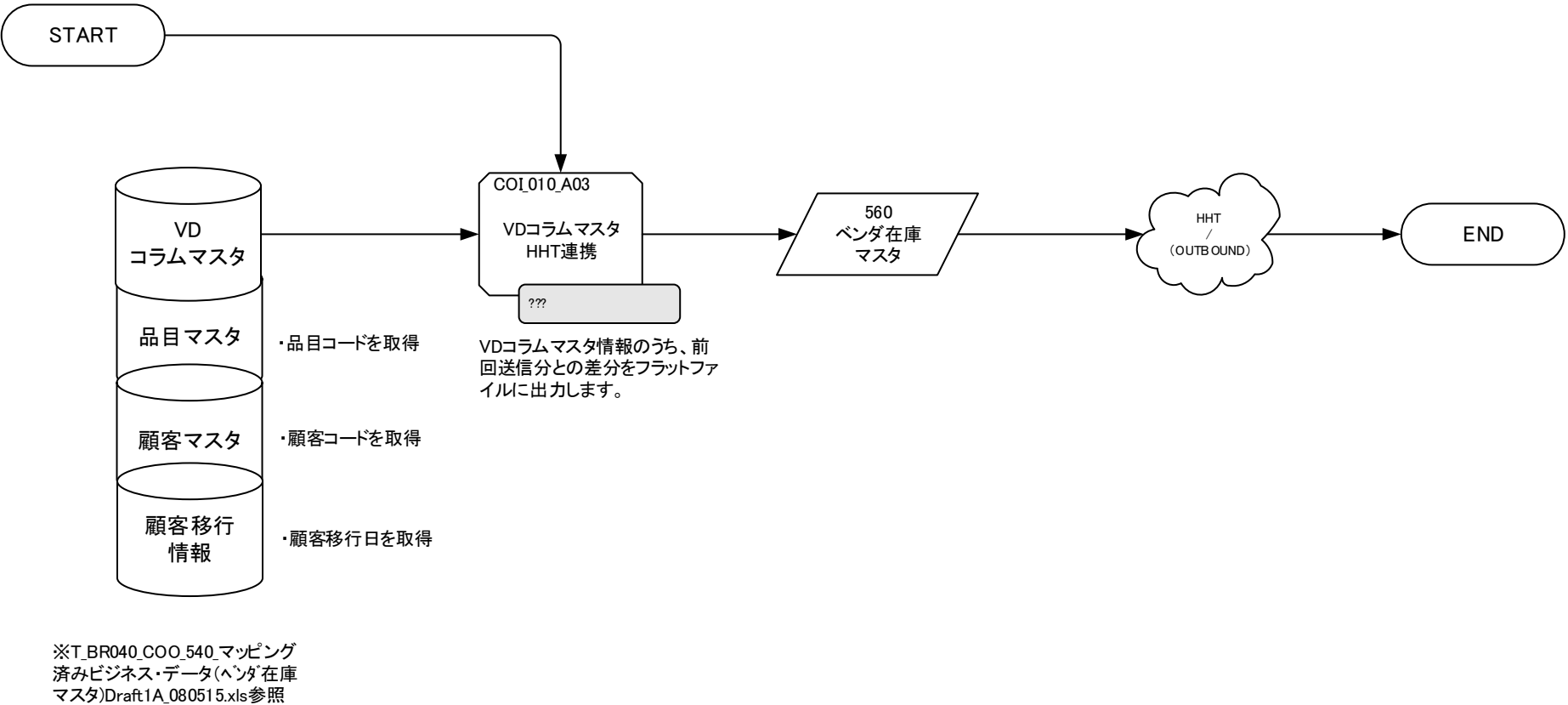
処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回／日実行および手動により随時実行する。

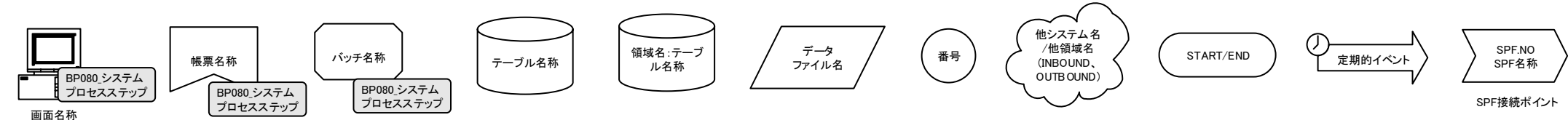
前回送信からの差分を出力する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

①拠点品目情報

システム利用者

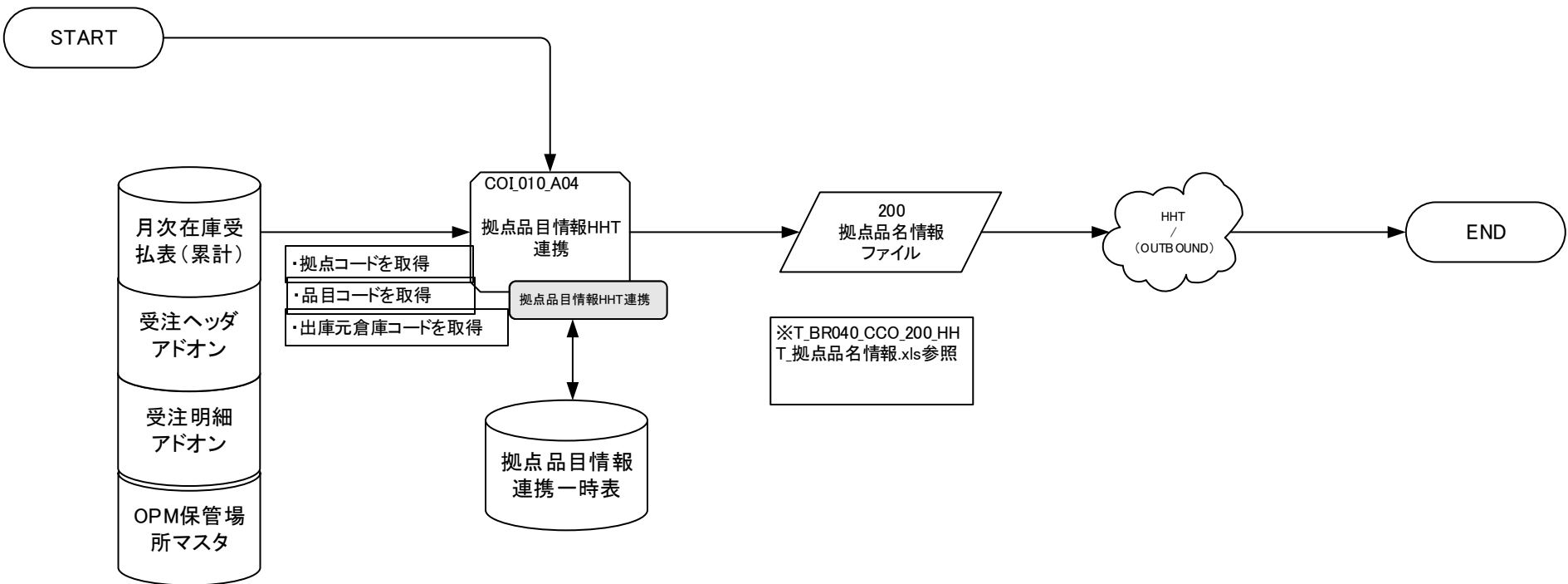
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

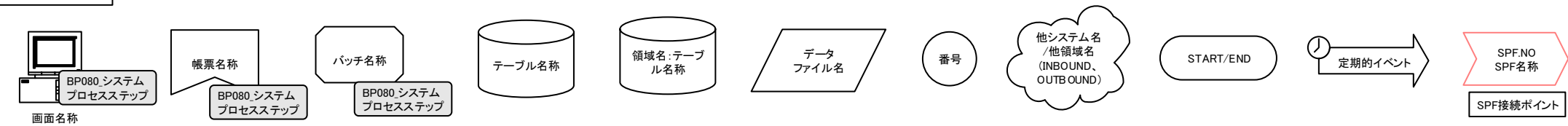
運用時間終了後に1回／日実行、および手動により随時実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

- ①他拠点営業車入出庫セキュリティマスタ

システム利用者

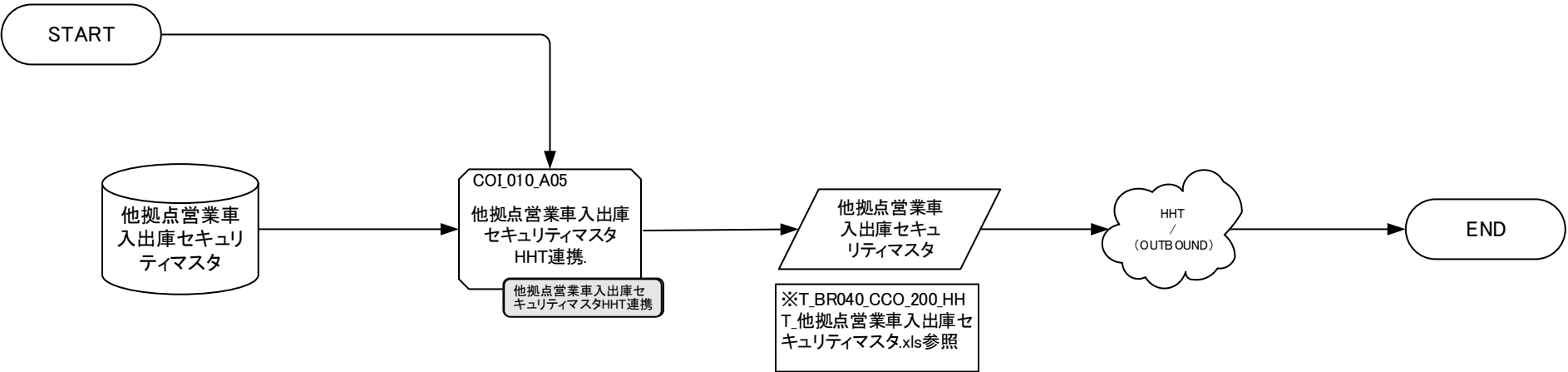
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

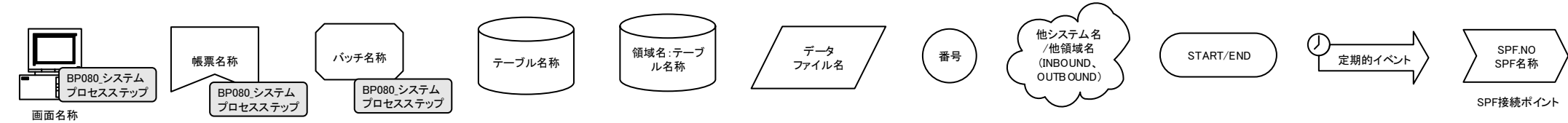
運用時間終了後に1回／日実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

①工場入庫情報

システム利用者

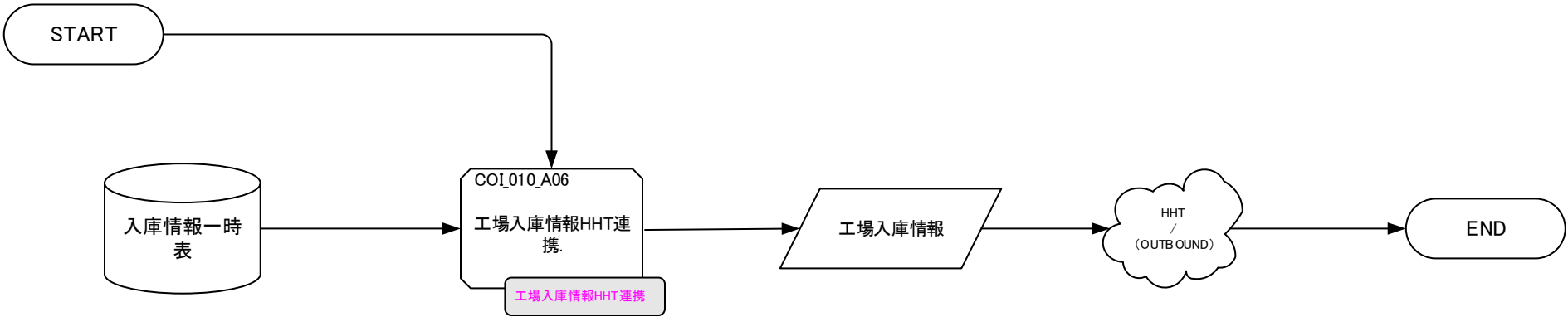
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

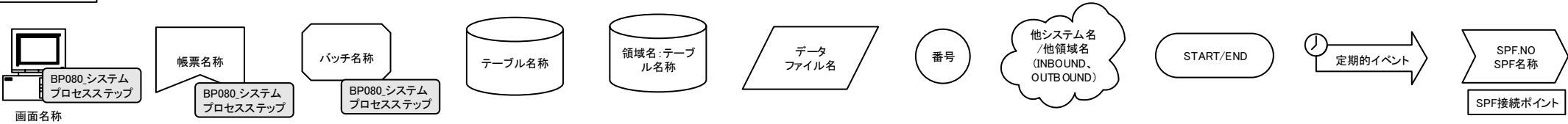
運用時間終了後に1回／日実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



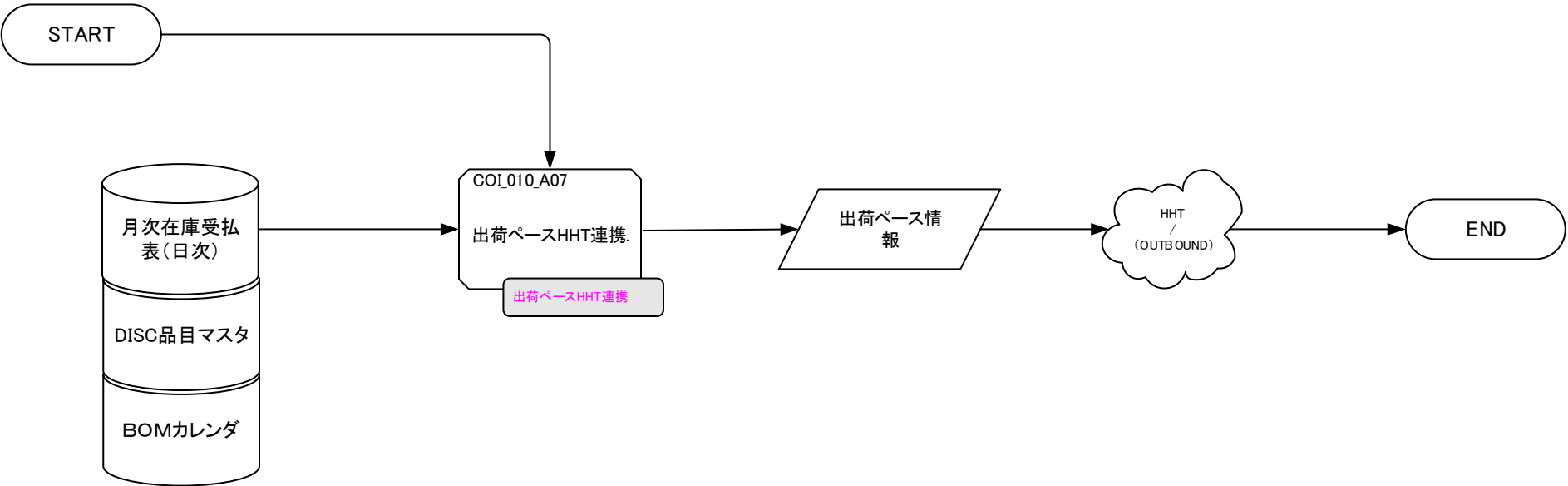
処理概要
HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。
①出荷ベース

システム利用者
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他
運用時間終了後に1回／日実行する。

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:

